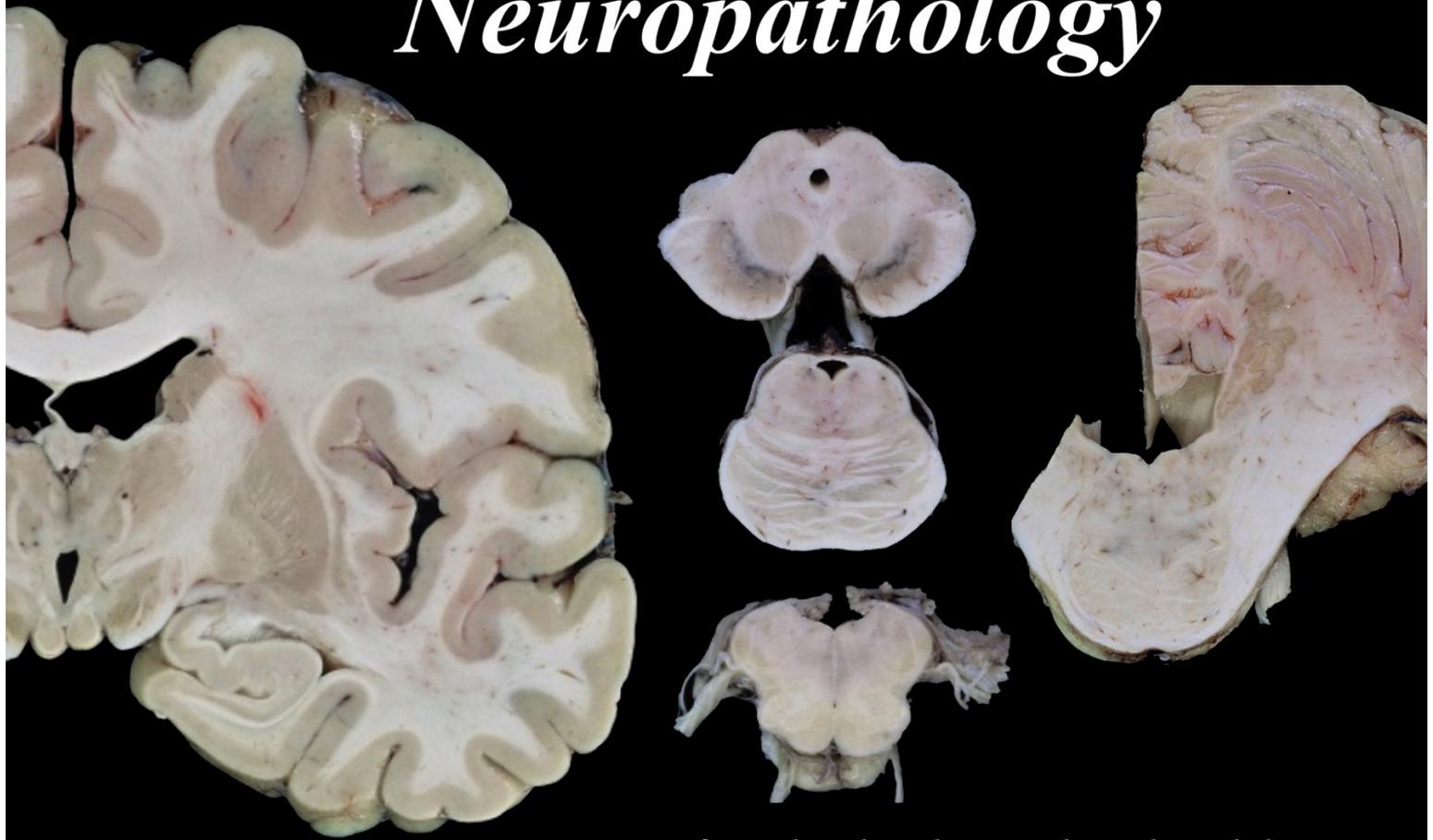


# Neuropathology



*for the high quality healthcare*

## 第30回 東北神経病理研究会

The 30th Neuropathology Meeting of the Tohoku District – October 26, 2024

### プログラム・抄録集

日 時：2024年10月26日（土）

場 所：秋田県立循環器・脳脊髄センター

参加費：医師 3,000円（学生，初期臨床研修医，技師，技術員，留学生は無料）

当番世話人：宮田 元

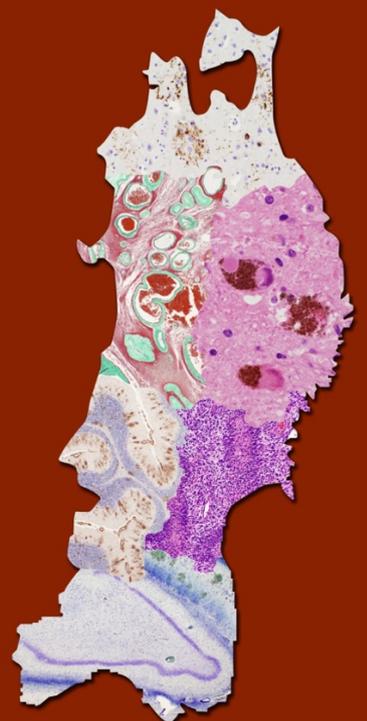
〒010-0874 秋田市千秋久保田町6番10号

秋田県立循環器・脳脊髄センター 脳神経病理学研究室

018-833-0115（内線2640）



Akita Cerebrospinal and Cardiovascular Center  
Research Institute for Brain and Blood Vessels  
Department of Neuropathology  
URL: <https://www.akita-noken.jp/>



## ご案内

### 1. 会場について

秋田県立循環器・脳脊髄センター（2階、会議室および講堂）

### 2. 参加登録

受付場所 秋田県立循環器・脳脊髄センター2階、会議室前にあります  
受付時間 午前8時45分より終日  
参加費 研究会3,000円(学部学生, 初期臨床研修医, 技師, 技術員, 留学生は無料)  
懇親会会費6,000円も併せてお支払いください(予約済みの方のみ, 学部学生と留学生は無料)

### 3. 発表形式

検鏡用標本の展示とPowerPointによる口演発表です。午前に標本観察を行い、午後に発表、質疑応答を行います

#### ① 標本供覧（2階会議室）

1. **午前中は標本供覧のできる貴重な時間です。標本は午前9時から可能な限り早めに演題番号の掲示のあるテーブルに置いてください。**当方でマップを用意しますのでご利用ください
2. 有意義なディスカッションのためにも、画像所見や肉眼所見のコピー等の資料も展示してください
3. 顕微鏡(20台)は16:15まで使用できます。標本観察後は必ず標本を元のマップに返却してください

#### ② 発表（2階講堂）

1. 発表時間は原則として**生検症例10分, 剖検症例15分(いずれも質疑応答を含む)**です
2. 当方でWindows PCを用意いたします。発表データをUSBメモリでお持ちください。午前中か休憩時間中に講堂で試写を行ってください。お預かりしたファイルは研究会終了時に世話人の責任で削除いたします。Macintoshをご使用される方やPowerPoint以外のソフトをご使用の方はモニター接続用のD-sub15ピンVGA変換コネクタ(右図)と一緒にご自分のPCをお持込ください



### 4. 昼食

昼食のご準備はいたしません。売店(病院1階)の営業時間は11:00-13:00です。院内レストランは営業していません。受付にて近隣の飲食店およびコンビニエンスストアのご案内をいたします

### 5. 交通および宿泊

1頁の図または秋田県立循環器・脳脊髄センターのホームページ(<http://www.akita-noken.jp/>)をご覧ください  
外来駐車場が満車の場合は職員用駐車場をご案内しますので、研究会受付までお問い合わせください  
宿泊は各自でご予約ください

### 6. 世話人会

研究会当日, 11:50-12:50に開催します。会場は当日ご案内いたします

### 7. 取得単位について

日本神経病理学会指導医認定更新(参加で3単位, 筆頭発表で+2単位), 日本専門医機構認定病理専門医資格更新(参加で1単位), 日本神経学会認定専門医資格更新(参加で1単位)が認定されます  
会場受付で領収書と参加証をお受け取りください

### 8. 研究会に関する各種お問い合わせ

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6番10号  
秋田県立循環器・脳脊髄センター脳神経病理学研究部  
Phone: 018-833-0115(代表), -2640(部長室), -2645(秘書・受付)  
Fax: 018-833-2104(代表)  
E-mail: hmiyata@akita-noken.jp(宮田 元)

### 9. 謝辞: 本研究会開催費用の一部については「地方独立行政法人 秋田県立病院機構 脳血管医学振興基金助成事業」による助成を受けています。この場をお借りして御礼申し上げます

## <会場案内図>

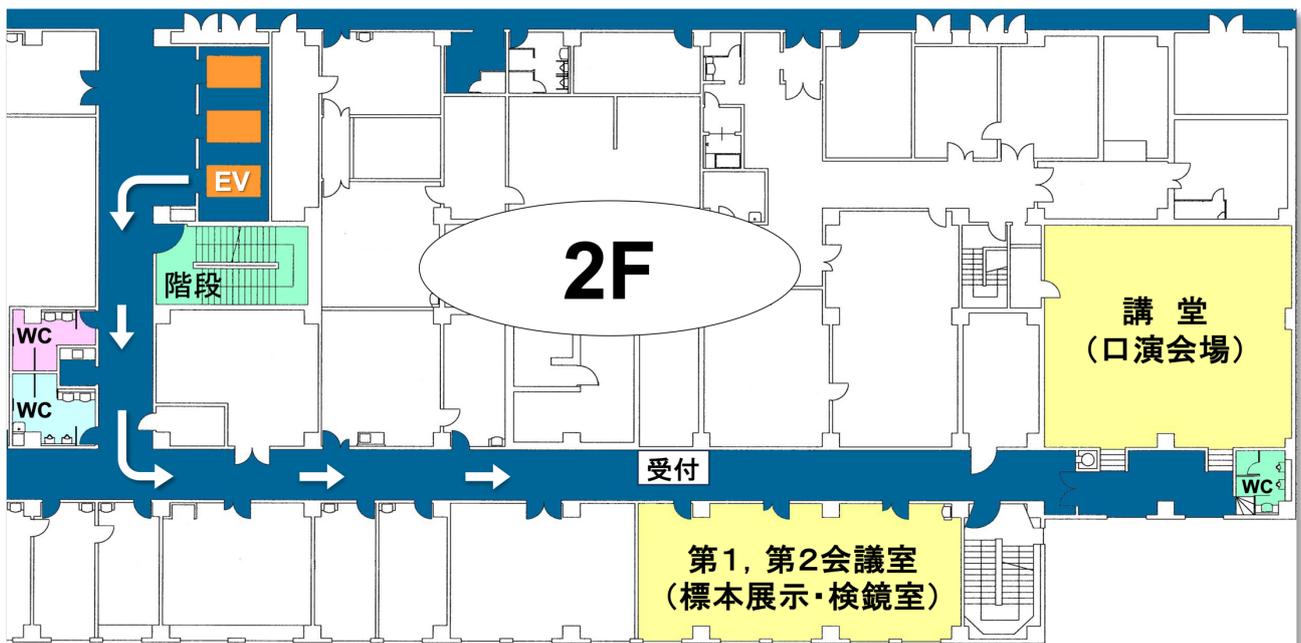
- 秋田空港より秋田駅西口までリムジンバスで約 40 分(片道 950 円)
- JR秋田駅より徒歩約 7 分



※正面玄関から入館してください

※外来駐車場をご利用される場合、駐車券を研究会受付まで持参してください。出庫時には1階受付(エレベータを降りて正面)で駐車券の無料化処理を行います

## <センター内案内図>



## 第 30 回東北神経病理研究会に寄せて

黒瀬 顕

弘前大学大学院医学研究科 病理診断学講座  
弘前大学医学部附属病院病 理診断科・病理部

諸先輩が築いてこられた東北神経病理研究会というアカデミアの末席に加えてもらい第 30 回目の当研究会を迎えた。汗顔の極みであるが、医学部卒業後病理を歩んできた自分が辿り着いた病理学への箴言を書かせて頂こうと思う。

小林秀雄が著作“美を求める心”で『見ると、それは堇の花だと解る。なんだ、堇の花か、と思った瞬間に、諸君はもう花の形も色も見るのをやめるでせう』と書いているのを読んだ時、何と病理学の盲点を的確に指摘していることかと驚いた。それ以来、病理学におけるものを観る目と、思考におけるものを観る目とは同じではないかと思えてならない。事実、僕の知る優れた病理学者は必ず優れた人格者でもある。

平野朝雄先生は『所見の深さ、拡がりはそれを“読む”人の識見の高さにより限りなく増大するものである』とおっしゃる。ならば勿論知識を増やしてものを見ることは大事だし、言語能力や表現力は観察眼と不離一体のもので、表現力を知らなければ観察力も養われないと思う。生田房弘先生は『病的状態は、厳然たる“病的秩序”を持つ細胞群の、生物学的法則の総括像に他ならない。従って病理組織というものは、なお現在の病理学が解明できないでいる無数の現象さえもすでに含めて、無言

で我々に語りかけているに違いない』と。組織や細胞形態が語るその裡にある真理の解明こそが病理学の identity であろう。

ニューヨーク留学中、郊外の文具店でたまたまレジにおられた平野先生にお会いしたのがモンテフィオーレ病院に通わせて頂くきっかけとなった。ラボにある過去の剖検脳の病理報告書と標本もみせて頂いた。台帳をめくると若き日の平野先生、生田房弘先生、Rubinstein 先生など著名な神経病理医のサインが添えられており、神経病理の歴史の縮図を見るようであった。その後、生田先生とは若林先生のご紹介で知己を得てお手紙を交わさせて頂くようになり、また僕の家内が学生時代に先生のお部屋をお訪ねしたことも覚えておられた。つくづく人との繋がりを嬉しく思う。

脳腫瘍の臨床医学において病理学が大変大事にされている。それはともに Zimmerman 先生のもとで学び、ニューヨークに留まって多くの日本人留学生を受け入れた平野先生と、帰国し新潟大脳研で多くの人を育てた生田先生の警咳に接し敬愛した医師たちによるものだろう。謙虚さと礼節そして思いやりと言った人格と学問の卓越は無縁ではないと確信するのである。

# 神経病理学に期待する

若林 孝一

弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座

私は 1985 年に医学部を卒業してすぐに神経病理学の研鑽を開始したので、今年で 40 年目となる。東北神経病理研究会には弘前大学に赴任した年(2000 年)の第 7 回から参加している。2008 年から 2021 年までは代表世話人も務めさせていただいた。今回で本研究会が第 30 回を迎える機に、私の神経病理学に関する姿勢や考え方について記してみたい。

私は標本を見る時に臨床診断を参考にはするが、信じてはいない。なぜなら、臨床診断が間違っているかもしれないし、臨床診断以外の所見が隠れているかもしれないから。そして、今見ている所見がどの病態に相当するのだろうと考えている。具体的に言えば、循環障害、炎症、脱髄、変性、腫瘍、発生障害などなど。そのようなことを考えながら脳の標本を見ることはとても楽しいし、いつも新しい発見があると思って標本を見ている。

私が神経病理学を始めた 40 年前には医学という学問領域は研究手法の違いによって分かれてい

たと思う。例えば、生理学、生化学、病理形態学、薬理学、細菌学などである。しかし、今では脳研究も癌研究も免疫学の研究も研究手法は集学的となり、ほとんど変わらないようになった。つまり、研究手法よりも研究対象を選ぶ時代になったのである。その中で脳だけは未だ機能の全貌が明らかになっていない臓器である。そうであるならば、脳神経系を対象とする病理学(「病(やまい)」の「理(ことわり)」を明らかにする学問)には期待しかない。

現在、日本の中心は東京かもしれないが、それは江戸時代以降のことであり、弥生時代以降は日本の中心は近畿を中心とする西日本であった。さらに、縄文時代には日本で最も豊かな地域は東北であった。たとえ東北を先祖とする血は流れていなくても、東北に住んでいるとだんだんとそのような気分になってくる(少なくとも私は)。

神経病理学に期待する。そして、東北の地において本研究会が長く継続、発展してゆくことを願いたい。

# プログラム

9:00-13:00 自由検鏡（会議室）

13:00-17:00 演題発表・討論（講堂）

(13:00 - 13:05)

開会の辞

当番世話人

宮田 元（秋田県立循環器・脳脊髄センター 脳神経病理学研究所）

演題

セッションⅠ：腫瘍(1)

座長：宮田 元(秋田県立循環器・脳脊髄センター 脳神経病理学研究所)

(13:05 - 13:15)

1. 右前頭葉内に発生し rosette-forming glioneuronal tumor と考えられた 1 例

○浅野研一郎<sup>1)</sup>, 麓 敏夫<sup>1)</sup>, 鎌滝章央<sup>2)</sup>, 柳谷啓太<sup>1)</sup>, 片山耕輔<sup>1)</sup>, 藤原 望<sup>1)</sup>, 斉藤敦志<sup>1)</sup>, 黒瀬 顕<sup>2)</sup>

1) 弘前大学大学院医学研究科 脳神経外科学講座

2) 同 病理診断学講座

(13:15 - 13:25)

2. 低悪性度てんかん原性脳腫瘍の 1 例

○鈴木博義<sup>1)5)</sup>, 大沢伸一郎<sup>2)</sup>, 浮城一司<sup>3)</sup>, 宮田 元<sup>4)</sup>, 岡 直美<sup>5)</sup>, 中里信和<sup>3)</sup>, 遠藤英徳<sup>2)</sup>

1) みやぎ県南中核病院 病理診断科

2) 東北大学 脳神経外科

3) 東北大学 てんかん科

4) 秋田県立循環器・脳脊髄センター 脳神経病理学研究所

5) 国立病院機構 仙台医療センター 病理診断科

セッションⅡ：腫瘍(2)

座長：鈴木博義（みやぎ県南中核病院 病理診断科）

(13:25 - 13:35)

3. 成人 AT/RT の一例

○内田 旬<sup>1)</sup>, 佐藤雄一<sup>1)</sup>, 柳川直樹<sup>2)</sup>, 黒瀬 顕<sup>3)</sup>, 別府高明<sup>1)</sup>, 赤松洋祐<sup>1)</sup>

1) 岩手医科大学 脳神経外科

2) 岩手医科大学病 理診断科

3) 弘前大学大学院病 理診断学講座

(13:35 - 13:50)

4. びまん性gliomaの組織診断と統合診断の乖離

○中山璃菜<sup>1)</sup>, 平山 茜<sup>1)</sup>, 鎌滝章央<sup>2)</sup>, 黒瀬 顕<sup>2)</sup>, 浅野研一郎<sup>3)</sup>

1) 弘前大学医学部 医学科4年

2) 弘前大学大学院医学研究科 病理診断学講座

3) 弘前大学大学院医学研究科 脳神経外科学講座

### セッションⅢ：腫瘍(3)

座長：黒瀬 颯(弘前大学大学院医学研究科 病理診断学講座)

(13:50 - 14:00)

#### 5. 皮膚および骨病変を伴う多発脳病変を呈したALK陽性組織球症の一例

○渡嘉敷直之<sup>1)</sup>, 池田謙輔<sup>1)</sup>, 佐藤聡子<sup>2)</sup>, 榎 桃子<sup>3)</sup>, 菅野直人<sup>1)</sup>, 金森政之<sup>5)</sup>, 三須建郎<sup>1)</sup>, 浅野善英<sup>3)</sup>, 遠藤英徳<sup>4)</sup>, 青木正志<sup>1)</sup>

1) 東北大学病院 脳神経内科

2) 同 病理部

3) 同 皮膚科

4) 同 脳神経外科

(14:00 - 14:15)

#### 6. HIV/AIDS に関連して生じた中枢神経系原発悪性リンパ腫(PCSNL)の一症例

○杉江 藍<sup>1)</sup>, 佐藤慶史郎<sup>1)</sup>, 齋藤拓也<sup>1)</sup>, 齊藤一仁<sup>2)</sup>, 大月寛郎<sup>3)</sup>

1) 聖隷浜松病院 脳神経内科

2) 同 総合診療内科

3) 同 病理診断科

<休憩 14:15 - 14:25>

### セッションⅣ：東北神経病理研究会 30周年特別企画

#### 教育講演「これだけは知っておきたい神経病理の基礎」

座長：鈴木 貴(東北大学大学院医学系研究科 病理診断学分野)

(14:25 - 14:45)

#### E-1. 脳・脊髄の病理解剖とブレインカッティングの基本手技

宮田 元(秋田県立循環器・脳脊髄センター 脳神経病理学研究室)

(14:45 - 15:10)

#### E-2. 中枢神経系における染色法と組織像の読み方～神経変性疾患を中心に～

三木康生(弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座)

<休憩 15:10 - 15:20>

### セッションⅤ：認知症・脱髄・末梢神経障害

座長：若林孝一(弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座)

(15:20 - 15:35)

#### 7. 顕著な錐体路変性に広汎な $\alpha$ シヌクレインおよびTDP病理を伴ったPSEN1-G384A若年性アルツハイマー病の一例

○川勝 忍<sup>1)</sup>, 小林良太<sup>2)</sup>, 森岡大智<sup>2)</sup>, 鈴木昭仁<sup>2)</sup>, 鈴木一司<sup>3)</sup>, 二口 充<sup>3)</sup>

1) 福島県立医科大学会津医療センター 精神医学講座

2) 山形大学医学部 精神科

3) 同 病理診断科

**(15:35 - 15:50)**

8. 脊髄長大病変を呈した高齢発症 NMOSD の一剖検例

○小阪崇幸<sup>1)</sup>, 津田幸元<sup>1)</sup>, 高松孝太郎<sup>1)</sup>, 幸崎弥之助<sup>1)</sup>, 田北智裕<sup>1)</sup>, 武藤礼治<sup>2)</sup>

1) 国立病院機構 熊本医療センター 脳神経内科

2) 同 病理診断科

**(15:50 - 16:05)**

9. ペムプロリズマブにより多発根神経炎を呈した一剖検例

○吉田広樹<sup>1)</sup>, 清野翔太<sup>1)</sup>, 西嶋春生<sup>1)</sup>, 鈴木千恵子<sup>1)</sup>, 渋谷絵里<sup>1)</sup>, 引地浩基<sup>1)</sup>, 藤田真子<sup>1)</sup>, 片貝敦子<sup>1)</sup>, 三上洋平<sup>1)</sup>, 槍澤丘泰<sup>1)</sup>, 富山誠彦<sup>1)</sup>, 三木康生<sup>2)</sup>, 若林孝一<sup>2)</sup>

1) 弘前大学医学部 脳神経内科

2) 弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座

**<休憩・標本撤去 16:05 - 16:15>**

**セッションVI: 脳血管障害**

座長: 南條 博 (秋田大学医学部附属病院 病理部)

**(16:15 - 16:25)**

10. 非典型的の病理所見を呈したスタージ・ウェーバー症候群の一手術例

○阿部純平<sup>1)2)</sup>, 本田涼子<sup>3)</sup>, 小野智憲<sup>3)</sup>, 伊東正博<sup>4)</sup>, 宮田 元<sup>1)</sup>

1) 秋田県立循環器・脳脊髄センター 脳神経病理学研究部

2) 秋田大学医学部 医学科 4年

3) 国立病院機構 長崎医療センター てんかんセンター

4) 同 病理診断科

**(16:25 - 16:35)**

11. 皮質下出血で発症し臨床的に悪性脳腫瘍が疑われた高齢者の一手術例

○師井淳太<sup>1)</sup>, 木下俊文<sup>2)</sup>, 宮田 元<sup>3)</sup>

1) 秋田県立循環器・脳脊髄センター 脳神経外科診療部

2) 同 放射線科診療部

3) 同 臨床病理部

**(16:35 - 16:45)**

12. 左側頭葉腫瘍生検例術

○西田 尚樹<sup>1)2)</sup>, 宮田 元<sup>3)</sup>, 野本 一博<sup>2)</sup>

1) 富山大学医学部 法医学

2) 厚生連高岡病院 病理診断科

3) 秋田県立循環器・脳脊髄センター 臨床病理部

**(16:45 - 17:00)**

**閉会の辞**

東北神経病理研究会 代表世話人

黒瀬 顕 (弘前大学大学院医学研究科 病理診断学講座)

**(17:30 - 20:00)**

**30周年記念懇親会 (含:自由討議)**